

人の一生を重く負ふて荷
を遠く道を行くが如く
し急ぐが如く可
らず

に食ふに探と申せし由、不意者の見
しめ我槍先にかゝつて相果てよと、
懸らんとすを、寺本押止めて、寺へ
まゝ給ふに、舟門に、某、深き謀計あ
つて一時九郎左衛門に從ひ、幾久公の
内室八重姫君を預りたる、其許の賊
を見送らるゝによつて八重姫君をれ
し申す、何卒勝久儀と共に京都に影
八重姫君の父交中、言致の朝
御預へ給ふすべし、即ち不切

疾、立て、黄へ打倒した、
 君之を見て大に驚き、
 上之の御舅、
 上之云ひ申受て、
 んと思ひに情けなや、
 身体を取籠り、
 其時人童姫は若し、
 未頼母し今一言、
 經よりも嬉しと思ふて成儀致しま

耳鼻咽喉頭喉
氣管氣管枝
診療時間
午前自九
午後自二
石田
京城市町二丁目
前京都醫科大學耳鼻咽喉科
前民團立漢城病院耳鼻咽喉科
京城民團義

頭 專 門
病 時至十二時
耳 至六時
鼻 日曜祭日午後二時迄
咽喉氣管病醫
石田
電話一七〇九
校室部長
科室部長
議員公認候補者

兩氏

その中立を保障したと同時に、米國も亦中立を保持せざるを得ない。然るに此は防衛上殊に要するところであるが爲め此は防衛費を増加すか若くは水國の兵力を以て是を彌補するにあらずんば各國の對運河の中立を維持し得ぬものなるべし。各國の對運河の中立を維持すべきとの約束は協約にして且其義務を負ふに危険なり巴拿馬防備に要する費用はかに千二百萬磅にして二分の利子とせんとも斯る大計畫の費用に對し低率のも

— 68 —

100

[illegible]

山中鹿之助
 六十七回 西尾崎慶演
 凡の愚勝丸は本年十一歳、才智余に
 幼少にしては申しなれる未だ中身の方
 例に召仕はれる家來の末に早月
 當の助と申す者が御座ひます、頗る
 誠實で勝丸に能く仕へて居りまし
 此の一日、一族の尼子九郎左衛門の
 逆によつて、山中鹿之助は、兵馬之
 早川船之助の三人は毒殺され、剩へ
 勝丸は捕虜となつて毛利元就の領土
 赤布田に押送されし間、きつマヨ
 田に舞を演ぜし上、注進



諸君の定意したるに當りては、實に其の用意も
 準備も、其の周到を圖り、其の利益を増進するに
 努力せざる可からずや。通關日迫、今、彼等
 の京派に就て、所見を陳べて、諸君の之を樂みたりとす。新政府の基礎を固くす可
 らば、併せて、選舉權者の注意を喚起すべし。其の
 んと供、云爾。

●招聘聘薩の辭職

哈 二千五百四十磅の年金を以て、
 薩長傳來家宛に於けるペストは、急々退職
 せよ。清國官吏の依體も、依り、防衛事務、成る公約を、薩と一葡葡は、年金を支拂
 に當りし所たる、免職者一名は、該府に在る職務より、あとして之を要請したるに
 來し。薩は、其の辭に、賛成たりとす。先づ、薩の、此の職を、一葡葡と、其の要請したるに
 關官官は、川上、哈、薩、總領事に、日本、駐劄、
 の招聘、方々を依頼したれば、直ちに、年々、
 ト氏は、紐育に於て、試みたる、預説中に

として坐りましき寺主生死之助の樂り
 たるて惣助に勝んを樂せむらさ長坂
 坡にて惣助の御まひし御まひやくや
 助と明ましく直に富田の城と乗出した
 子九郎左衛門云をはり 九「夫れ勝
 んを遊すナ 早苗の時は福年なれどナ
 と道の者ならん 油断にて不覺に敵を
 はれ取押へんと 勝をからして知を
 爲した 九郎左衛門部下の人々大身
 國を提げ 馬に打勝て十五六人樂出
 へ参りたり 〇如何 早苗之助
 九郎左衛門に勝せ 否やと云へば汝
 速て討てするゾナ」と問聞と取

て着し城門を、（一）解き出した。三、（二）龍丸君は海上にのぞき、八重姫は、（三）父上を見れば九郎左衛門の御手紙の面々、此方から勝丸兄の發毛と書き上げ、八、今、（四）おれちも父上には敵の御手紙に描けり。其方は何革命を承へらへ蘇州吉田、（五）磯崎と提げ歸をまつて追駈けたり。昔之助は虎口で脱れて、雄と距る事一、（六）居たふ父上を取返し、再び足子家、（七）里平、松原まであつてホッとひと息吐くを興し、當の敵九郎左衛門と討取、（八）くまへ、オロイと後より呼ぶ者ど御給へ。例へば三面六臂の男者なり、と。

應ひます何人なるかと見ると、夫へ参、飛騨具をもちて討ちたらば急ぎから、（九）かけては寺本生元之助が八重姫君に纏を普へ廻す廿二人は家の爲に自害し名、（十）うけて一散、駆けよした。早、前之進、給んとか、死すべき所に死なさ、（十一）助之助に見、涙に怒り。早、ア、人面は龍に勝る取めりとは古人の教へ、（十二）殿心の寺本、泣は貨運入に尊皇門に、今、時とし事ゆめめ、思ひ給ふよ、と。（十三）

降り、主君の御内室を九郎左衛門の妻より早くサラリ引抜きたし、機織婆にて

議員候補者
(順ハロイ)
前田 増田 松浦 淵上 古川 皆川 三好 三和 三郎
右推薦候也
東京同志會
京城旭町三丁目
實業所 矢倉壽司席
(電話一四一九番)

右京城民團議員候補者に推選候也
加越能郷友會有主

かん憐あらば救ひ給へし云ふが
 の言の別れ、其處はへたして、曳
 狀へ首の助も、其の体を見てもナ
 ツと泣出した、折しも聞へ、蘭僧太
 信は、船客さたり、水屋は出ぬの
 び、蘭丸を馬に乗せし連へ、蘭僧は十
 三びかの舟見送り、遂へ、蘭丸へ通
 りました、夫を見ると何とぞ、た
 寺本生元の助が、ヤツと云ふが早
 雲打に、其飛丸の首を切た、其の
 雲を離れ、逃げ出しました、抑も何故
 舟の舟見を切たか、蘭僧は何れぞ
 か水屋に申上げます

廣 告

木下大盛堂

疾へ来立て、黄へ打倒れした、腰
 君之を見て大に驚き、
 母上之御舅、吾こそ深く腹切つ
 上の云ひを變じ、生捕られし恥を、
 んと耻ひに情けなや、慰めよと母
 身体は致し、暫く深にこりたまふ
 其時八重姫は否し思を吐き、
 未だ親母し、今の一言、表は、
 是よりも慙しと思ふて成儀致します

純良
 木下大盛堂藥局

右右右右右右右

無

內科小兒科院長
外科部長 岡山醫學士
產科部長 醫學博士
婦人科部長 醫學博士
眼科部長
耳鼻喉科部長 醫學博士
京城明治町
電話一二二號

安藤一郎
野平靖男
池田專
池田久二
及川邦治
漢城病院

休

京城居留民團民會議員候補者
中島司馬之助君
釘本藤次郎君
前田熊市君
關繁太郎君
佐賀縣鄉友會

右民團議員候補者に推薦す
池田長次郎君
待井三郎君
筑前人同志會
廣田熊治市
前田源治市
松浦源治市
本町一二丁目有志

推選廣告

右議員候補者に推薦す
松岩田仙
浦源治君
松浦源治君
本町一二丁目有志

推選廣告

右議員候補者
松浦源治君
本町一二丁目有志

九
父の元が父の元

耳鼻咽喉頭病專門
氣管氣管枝病專門
診療時間 午前自九時至十二時 午後自二時至六時 日曜祭日午後二時迄
京成本町二丁目 石田耳鼻喉科氣管病醫
前京都醫科大學耳鼻咽喉科教授並長
府民國立病院耳鼻喉科部長 石田 誠

右推薦候補也
明治四十四年一月廿四日 龍山有志者一同

京城市團議員公認候補者
明法學士 渡邊與三郎君
現任民間議員 竹內菊太郎君
現任民間議員 菊太郎君

紙函封筒
言袋 業集 送則賣
京城長谷川町二丁目
鼎商會
電話九百十八番

